

第
12
回

CSデザイン賞

THE 12TH CS DESIGN AWARDS 2002



目次

- 1 ● 審査員講評 永井一正
- 2 ● 大賞
- 4 ● A: 装飾部門
- 7 ● B: サイン部門
- 10 ● C: 輸送機器部門
- 10 ● D: 実験部門
- 12 ● 審査員講評——福田繁雄／菊竹清訓／内田 繁
- 16 ● 特別賞
- 16 ● ご挨拶 中川幸也
- 応募要項
- 表紙デザイン／永井一正

CONTENTS

- 2 ● GRAND PRIX AWARD
- 4 ● A: DECORATION CATEGORY
- 7 ● B: SIGN CATEGORY
- 10 ● C: TRANSPORT MACHINE CATEGORY
- 10 ● D: EXPERIMENT CATEGORY
- 14 ● JUDGES' COMMENTS
Kazumasa Nagai / Shigeo Fukuda /
Kiyonori Kikutake / Shigeru Uchida
- 15 ● ACKNOWLEDGEMENT
Yukiya Nakagawa
- 16 ● SPECIAL AWARD
- SOLICITATION CONDITIONS
Cover Design by Kazumasa Nagai

CSデザインの巾の広がり

永井一正

CSデザイン賞も第12回を数えることになった。今回の作品群を見ても、CSが広く街のなかやビルの内部に、サインや装飾として定着していることがわかる。不況が続くなかで、この分野も影響を受けざるを得ないと思われるが、一部の輸送機器部門の不調を除けば、層も厚く、特に受賞したそれぞれのデザインは質の高いものであった。

大賞は菊竹雪の〈原宿Yビル工事現場仮囲い〉に決定したが、菊竹はこのところずっと仮囲いのデザインに積極的に取り組んでおり、従来ビルの工事中に止むなく囲っている消極的なものを鑑賞にたえるアートに高めてきた。今回のものは特に優れており、仮囲いの部分部分をパースペクティブを持った不思議な幻想を誘う空間にしている。工事の前半のどまし絵的な鏡面シート、後半のどこまでも広がりを見せる空、そして奥行きを強調する赤い2個の卵形のデザインと変化し、このまいつまでも設置しておきたい仮囲いになっている。これは街の美観を創造し、心の裏に深く入っていく造形である。

装飾部門金賞はくベネッセ・メッセージアム展アプローチに決ったが、松永真は展覧会のエントランススロープを美しく力強い色のストライプで構成しており多色の色彩のハーモニーも見事で、それはヴィヴィッドで勇気を与える。そして長いスロープはこのデザインにより高い密度を持ち、展覧会コンセプトの〈人と人をつなぐ〉を表現している。

サイン部門金賞〈東証ARROWS〉の廣村正彰は緻密な白線の透視図によって、東京証券取引所のIT化をその図像の正確な密度と流れるようなスムーズな動きによって表現し、イメージ豊かなシンボリックな空間として完成度の高いものとなっている。またこの部門銀賞の原研哉の〈松屋リニューアルプロジェクト〉は、松屋の銀座通り100mにわたる仮囲いであるが、白地にリアルな、そして巨大なジッパーが横に伸びておりそれがリニューアルオープンが近づくにつれて、その後2回にわたって開かれていき、松屋がどのように生まれ変わるのかという期待感を高めていく。シンプルでいながらこの長い仮囲いの特質を極めて有効に生かしたデザインで話題を呼んだ。

実験部門金賞〈クスギの木〉の福田美蘭は世田谷美術館の自身の展覧会で実現したものであるが、この美術館へ入ると1階の部分はガラス面におおわれ、公園の景色が全面に見えていたのだが、この会場に入った時にその様相が一変していて驚かされた。ガラス全面に白いシートが貼られ、ところどころにデコラティブなプリントされた額縁が貼られ、その部分からだけガラスがすけて外の景観が見られるようになっている。それは移動することによって景色が動く。この卓抜したアイデアに驚いたものである。今回のCSデザイン賞の受賞作は巾も広く、またこのようなアートへの創作にも生かされ興味深かった。

(グラフィックデザイナー)



Kazumasa Nagai

大 賞

作品名／原宿Yビル工事現場仮囲い

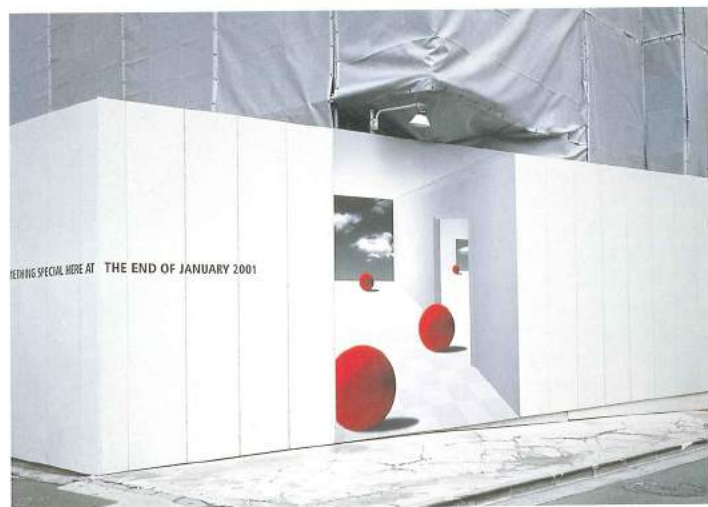
ディレクター・デザイナー／菊竹 雪

クライアント／株式会社ヨックモック

プロデューサー／村井久美

デジタル加工／印南香織 模型制作／春日竜美智雄 模型写真／早川静生

写真／スタジオ・ムライ 施工／株式会社ローヤルカラー



GRAND PRIX AWARD

Title / Harajuku Y Building Temporary Fence

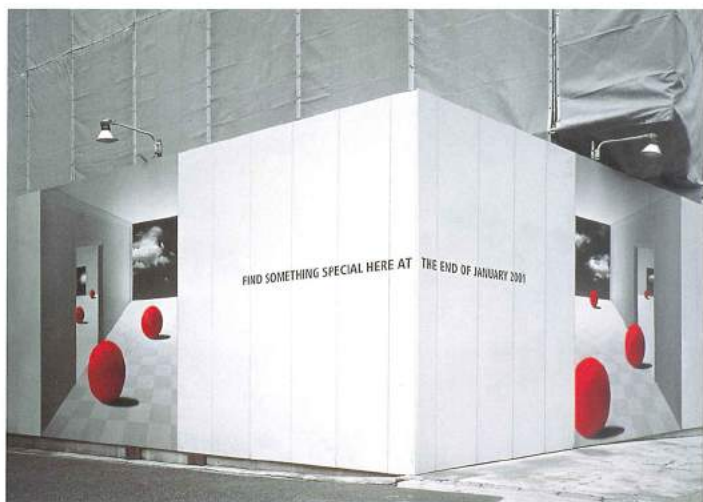
Director + Designer / Yuki Kikutake

Client / Yoku Moku Co., Ltd. Producer / Kumi Murai

Digital Processor / Kaori Inanami Model Construction / Michio Kasugame

Model Photo / Shizuo Hayakawa Photo / Studio Murai

Constructor / Loyal Color



A: 装飾部門

金賞 作品名/ベネッセくメッセージアム>展アプローチ

ディレクター/松永 真

デザイナー/松永 真+伊藤英典

クライアント/株式会社ベネッセコーポレーション

プロデューサー/瓦川正敏

施工/株式会社オーク

A: DECORATION CATEGORY

Gold Award Title / Benesse "MESSAGEUM" Exhibition Approach

Director / Shin Matsumaga

Designer / Shin Matsumaga + Hidenori Ito

Client / Benesse Corporation

Producer / Masatoshi Oikawa

Constructor / Oac

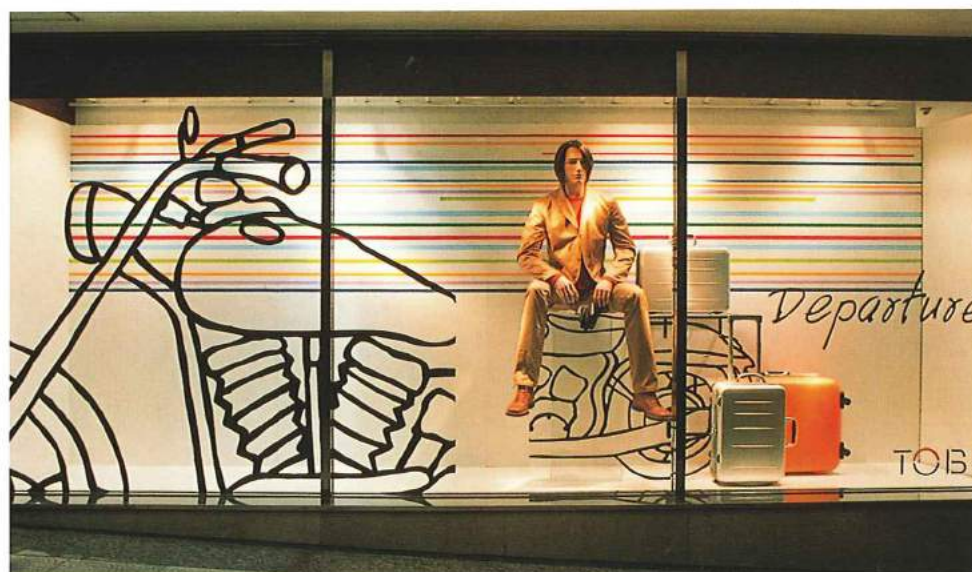


銀賞 作品名／＜Departure＞ 秋のトラベルフェア

ディレクター／宇多川敦史 アートディレクター／山田祐照
 デザイナー／中澤 徹＋井上純一
 MDコーディネーター／甘木美紀＋星野孝司
 クライアント／株式会社東武百貨店
 施工／株式会社ノムラデュオイースト

Silver Award Title / "Departure" Autumn Travel Fair

Director / Atsushi Udagawa Art Director / Hiroaki Yamada
 Designer / Tetsu Nakazawa + Junichi Inoue
 MD Coordinator / Minori Amaki + Takashi Hoshino
 Client / Tobu Department Store
 Constructor / Nomura Duo East



銅賞 作品名/Myriad of Dreams WATANABEビルの装飾

ディレクター・デザイナー/末島康博
クライアント/ワタナベカメラ
施工・加工/キジマデザイン

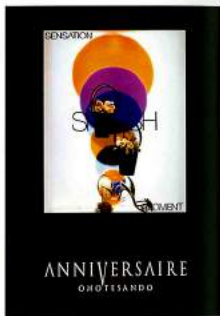
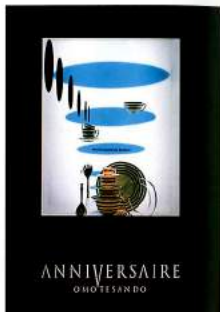
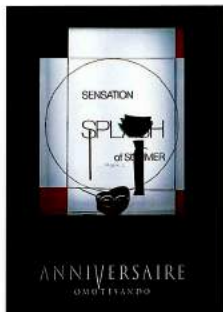


Bronze Award Title / Myriad of Dreams
WATANABE Building Decoration

Director + Designer / Yasuhiro Kijima
Client / Watanabe Camera Constructor + CS Processor / Kijima Design

銅賞 作品名/<COLOR BALANCE>

ディレクター・デザイナー/古閑宏記
コーディネーター/村田まゆみ
クライアント/アニヴェルセル表参道
施工/小林工芸社



Bronze Award Title / "COLOR BALANCE"

Director + Designer / Hiroki Yoshioka
Coordinator / Mayumi Murata
Client / Anniversaire Omotesando Constructor / Kobayashi Kogei-sha Co., Ltd.

B: サイン部門

金賞 作品名/＜東証ARROWS＞

ディレクター/廣村正彰

デザイナー/水野佳史

クライアント/株式会社東京証券取引所

施工/株式会社丹膏社

B: SIGN CATEGORY

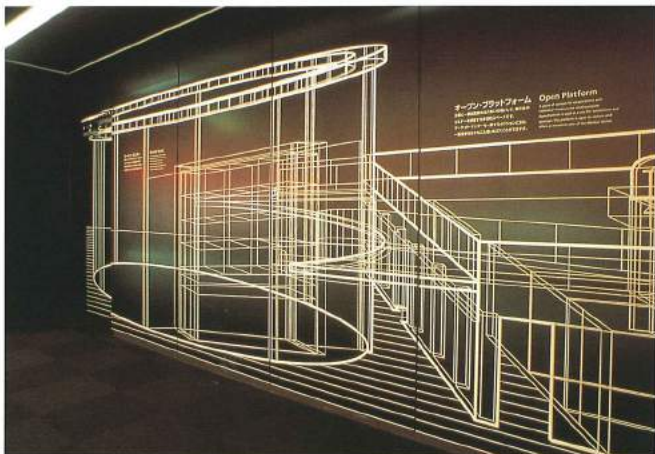
Gold Award Title / "Tosho ARROWS"

Director / Masaki Hiromura

Designer / Yoshifumi Mizuno

Client / Tokyo Stock Exchange

Constructor / Tansei-sha Co.,Ltd.



銀賞 作品名/松屋銀座リニューアルプロジェクト

ディレクター/原 研哉
デザイナー/原 研哉+池 真帆
イラストレーター/大野高史
クライアント/株式会社松屋

エージェンシー/株式会社M&A
施工/大成建設株式会社
加工/日本セーフティ株式会社



Silver Award
Title / Matsuya Ginza Renewal Project

Director / Kenya Hara
Designer / Kenya Hara + Maho Ike
Illustrator / Takashi Ohno
Client / Matsuya Co., Ltd.

Agency / M&A Co., Ltd.
Constructor / Taisei Corporation
CS Processor / Nihon Safety

銅賞 作品名/新生銀行CIデザイン

ディレクター/太田 岳
デザイナー/太田 岳+森田利彦
クライアント/株式会社新生銀行
エージェンシー/ビーコンコミュニケーションズ株式会社



銅賞 作品名/「クロード・モネ展」会場サイン

ディレクター/磯部 司
デザイナー/野村勝久
クライアント/山口県立美術館
施工・加工/株式会社オオパクリエティブ

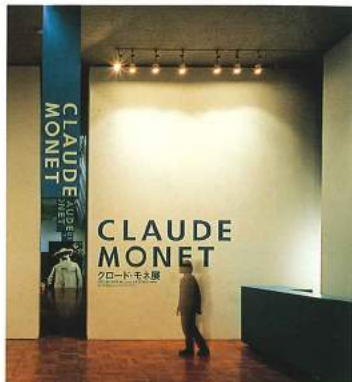


写真:ナカサ アンド パートナーズ Photo: Nakasa & Partners Inc.

Bronze Award

Title / Shinsei Bank CI Design

Director / Gaku Ohta
Designer / Gaku Ohta + Toshihiko Morita
Client / Shinsei Bank, Limited
Agency / Beacon Communications K.K.

Bronze Award

Title / "Claude Monet Exhibition" Sign

Director / Tsukasa Isobe
Designer / Katsuhisa Nomura
Client / Yamaguchi Prefectural Museum of Art
Constructor + CS Processor / Ohba Creative Co., Ltd.

C: 輸送機器部門

銀賞 作品名/加賀・地域周遊バス<CANBUS>

ディレクター・デザイナー/古場田良郎

クライアント/株式会社まちづくり加賀

施工・加工/株式会社ウィル・コーポレーション + 有限会社カガ宣伝



C: TRANSPORT MACHINE CATEGORY

Silver Award Title / Kaga Local Loop Bus "CANBUS"

Director + Designer / Yoshiro Kobata

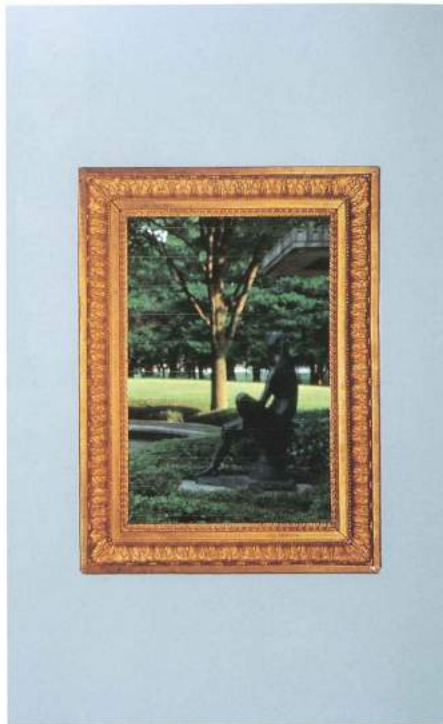
Client / Machizukuri Kaga Co., Ltd.

Constructor + CS Processor / We'll Corporation + Kaga Senden Co., Ltd.

D: 実験部門

金賞 作品名/<クヌギの木> 他 6 作品

ディレクター・デザイナー/福田美穂



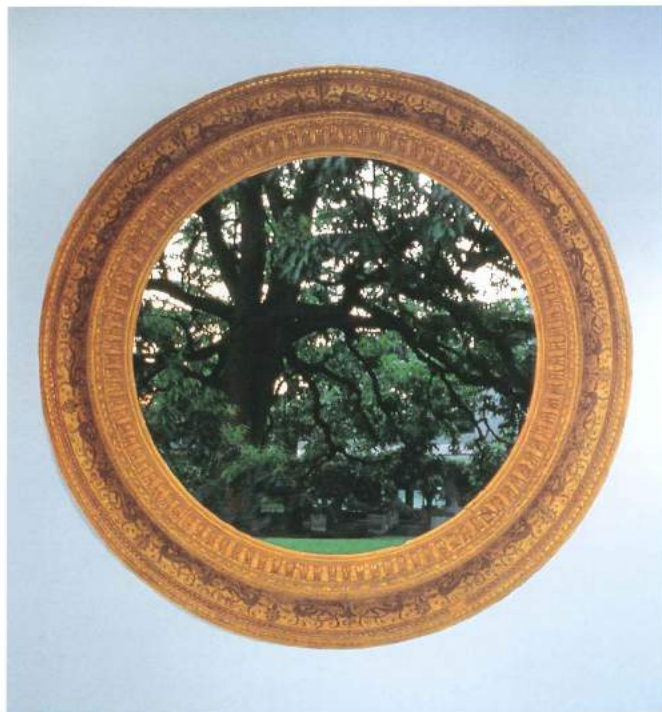
D: EXPERIMENT CATEGORY

Gold Award Title / "Oak Tree" and six other works

Director + Designer / Miran Fukuda

銅賞 作品名/＜Spring has come 2001＞

ディレクター/松永 真
デザイナー/松永 真+武市道雄+伊藤美典
クライアント/株式会社松永真デザイン事務所
施工/高橋 晋+根名太一



Bronze Award

Title / "Spring has come 2001"

Director / Shin Matsunaga
Designer / Shin Matsunaga + Michio Takechi +
Hidenori Ito

Client / Shin Matsunaga Design Inc.
Constructor / Susumu Takahashi + Daichi Shina



福田繁雄
Shigeo Fukuda



菊竹清訓
Kiyonori Kikutake



内田 繁
Shigeru Uchida

素材と発想と

福田繁雄

CSデザイン賞のコンクールも今年12回を迎え、コンクールを支える文化デザイン事業そのものが単独企業として難しい時代。開催実行の主催者に心から感謝し、敬意を表したいと思います。このコンクールは改めて言うまでもないと思いますが、く貼る塗料）粘着シートを使用するという特別な条件がある。この条件が他のデザインコンクールでは見られない難しさであり、面白さであり、新しさなのだと思う。そして、この2年間に実際に制作されたという社会性も、このコンクールの重要な趣旨で意義なのです。

このコンクールを提唱した勝見勝氏、設立当時の審査員だった亀倉雄策氏、そして、田中一光氏が故人になられ、一抹のさみしさが、審査会に漂ったが、応募作品の明解なコンセプトの力作ぞろい、明い感動に包まれ有意義な審査会だった。

快適に連なる線の流れ。線状はスピードをあげて透視空間を構築し、見事な四次元的インテリアが二次元の壁面に浮びあがる。IT化によって再建された（東京証券取引所）の壁面作品の精巧なグラフィックの展開に圧倒され、アイデアの素晴らしさに感動させられた。

そして、白く続くインテリア空間に5色のカラーラインが走る。軽快なリズムを残像させながら…。人々を誘導させるカラー床面サインはホスピタルなどに、その例を見ることは出来るが、ここ（MESSAGE）のデザインは機能を越えて遊びのある楽しさによって見事に完結している。

ウィンドウの外部との接点ガラス面と内部展示空間とがアイデアによって相乗効果を面白くあげている（東武百貨店）。旅行をテーマにし、実物商品と銀箔の乗り物とのユーモラスな組合せは抜群の出来だった。

ビジュアルトリックは海外の都市や街ではよく見かけることが出来るが、日本ではまだまだ未発達のデザイン手法だ。（Myriad of Dreams

WATANABE）はその効果を楽しみかせてくれている。色彩を黒と灰色という2色におさえて、イラストの存在を強調したデザインは見事で、幻想のメルヘンを唄いあげている。

建築工事現場の板囲いは公共的にも目ざわり、迷惑至極の壁なのだが、その板囲いを消してしまった傑作が（原宿Yビル工事現場板囲い）である。本来無様で無味乾燥。その不用の壁が、そこを通る人々に語りかけ、少なくとも明るい気持ちにさせてくれる。これが公共デザインの基本であると思う。この作品は見事なデザイン処理で三次元の空間を創りあげている。コピーの“FIND SOMETHING SPECIAL HERE AT THE END OF JANUARY 2001”がそのデザインマインドを語っている。

条件の素材をどのように効果的に、新しい発想で使用するのか、ますますこのコンクールの意義が重要に思えた今年の審査会だった。

（グラフィックデザイナー）

CSデザイン賞 総評

菊竹清訓

総評として、新しいカッティングシートによる環境革命が、いま静かに進行していると思わせる町の風景が、新しいデザインに変わってきた。

変化は常に、材料からおこってくる。建築でも、古典が現代建築に変化したのは、人工材料の出現によっており、1850年の産業革命後のことである。特に戦後、ガラスの建築が多くなり、技術開発がすすみ、強化ガラス、複層ガラス、中空ガラスなど、外装に透明ガラスが多用され、室内も半透明のガラス間仕切りが多くなり、これが昼夜間など光の効果考えた多種多様なガラスの利用が、豊富になってきた。

わが国では、もともと開放的空間が多かったし、光をコントロールする上で雨戸、格子戸、障子などが多様に発達していて、適度の遮蔽をしながらスペースを造っていたので、こうした世界的開放建築の出現はさして驚くことはな

い。しかし、開放的にすればするほど、そこに何らかのコントロールの方法、手段がなければならない。カッティングシートは、その要求に応じてガラスの上に色彩、かたちの自由度が大きく、現代建築に適った実にユニークな表現内容をもっているといえる。

この賞も、中川ケミカルがカッティングシートの色を通じて社会貢献したいという主旨で始まって、すでに21年続けられてきている。勝見勝先生、亀倉雄策先生と歴代の審査委員長から今は永井一正さんに受け継がれている。

審査で気が付いた特徴的なことを挙げると、文字が自由に使えることにある。繰り返し、拡大縮小、変形など、これはこのシートの一つの特徴と言つてよいだろう。また、色彩の鮮やかさは抜群で、濃淡が加わってその効果は絶大なものがある。

それにしても街の景観を支配するのは、一般的に商業建築が多い。レストラン、商店のショーウィンドウのディスプレイ、デザインがわかにか華麗になってきたことは、このカッティングシートのおかげである。これにデジタルプリントが加わってこれほど容易に、自由自在なデザインが展開できる時代はかつて無かった。

そのため、(世田谷美術館)の案があったが、実に美しく、端正で、やはり格調高いディスプレイで品位が保たれ、好感がもてた。前に田中一光さんの西武美術館のショーウィンドウデザインが強烈で、印象が強烈であったが、確かにカッティングシートの特徴をよくわきまえてデザインされた結果ではなかったかと思う。しかし、これがV部門の自動車のボディデザインに進出すると、他に類を見ない面白い展開が目を楽しませてくれる。

これで光る材料を床に使った例や、照明との組み合わせなど、幻想的な環境演出ができることが判ってきた。そこで環境に調和する調定と色彩の豊富なパレットが中川ケミカルで開発されたことは、新しい環境への積極的貢献として、このシミュレーションシステムが大いに評価したい。

とりわけグランプリとなった街角の仮囲いのデザインには一層深い印象を受けた。実にキュービックで簡潔なシャープさは、仮囲いの機能を一気に建築まで高めていった。カッティングシートの実に小気味のよい切れ味のすばらしさに改めて感心させられた。

中川ケミカルがCSデザイン賞が、日本の街を楽しく美しくすることに貢献し、文化の向上に資することを希い、会社の繁栄と事業の発展と、そして日本の街の美的文化を向上させて頂きたい。

カッティングシートへの挑戦に心から敬意を表し、各位のご発展をお祈りします。

(建築家)

CSデザイン賞の発展

内田 繁

こうして賞全体を通して改めて見てみると、大変な賞になったな、と実感せざるを得ない。さらに受賞者の顔ぶれには、さらに驚かされる。これもカッティングシートがもはや表現素材として欠くことのできないものになったことを表しているのだろう。そうした視点で見ると、空間のさまざまな場面に溶け込み始めたようである。グラフィック表現はもとより、空間の装飾素材としての活用にも落ち着きを見せ始めてきた。やはり、デザイナーの力がこの素材の本性を見いだしたのだろう。

そうしたなかで今年度のグランプリは菊竹雪さんの(原宿Yビル工事現場仮囲い)に決定した。菊竹さんはここ数年、仮囲いを通して常に美しいランドスケープを実現してきたのだが、確かグランプリは初めてでなかっただろうか。ここ数年の作品を思い出してみるとその度ごとに何か新しいことに挑戦していたものだったが、今年の作品は実際の建築が想定されるような美しい立体物となって表された。

仮囲いは一般にグラフィック表現が主だった。そこにはドーローイングが持つ意味、内容、

色彩などによる美が街環境に新鮮さを与えてくれたのだが、建築的表現はこうしたなかで初めてのものではないだろうか。いつまでもとっておきたいような衝動にかられるのだが、仮囲いの良いところは役目が終わったらすぐに消えるところにある。一回性の美であるから、大胆な試みも記憶として鮮明に残るのだろう。

各部門の金賞はそれぞれが素晴らしいものだった。松永真さんの(メッセージアム展)、廣村正彰さんの(東証ARROWS)、福田美蘭さんの(クスギの木)などは、どれがグランプリを取っても遜色のない作品だろう。メッセージアム展は、その色彩のバランス、パターンの方向性とそのゆらぎが、みごとに空間感をつくりだしていた。こうした作品をみると空間にも十分耐えることができる素材だと感じないわけにはいかない。しかしこれもデザイナーの能力によるものなのだろう。

(東証ARROWS)の線画はまさにカッティングシートの醜態を全て引き出したものだといえる。一般に壁画としての線画は難しいものである。これこそ現代のテクノロジーによるものである。

最後になるが、私がもっとも驚いたのが(クスギの木)といった作品であった。風景を切り取るインсталレーションは、その切り取った風景そのものが時間、移動、角度などによって変化し、まさに変化する絵画である。風景はこうにして切り取られると、その微細性が、より鮮明に浮かび上がる。さらに時間の経過が、ものの背後に隠された真性を浮かび上がらせることになる。

(インテリアデザイナー)

THE 12TH CS DESIGN AWARDS JUDGES' COMMENTS

Expansion of Scope of CS Design

Kazumasa Nagai

This year's CS Design Awards is the 12th one. Looking at the works submitted this year, we can understand that cutting sheets have become firmly established as design and decoration within cities and buildings. It is believed this field cannot help but be adversely affected by the continuing recession, but outside of the slump in the Transport Machine Category, many works were submitted, and the design quality was very high, especially in the designs which won awards in the various categories.

The Grand Prix Award was given to Yuki Kikutake for her Harajuku Y Building Temporary Fence, but she has been aggressively working on temporary fence design recently and has raised the negative thing fencing a construction site to the level of art. This latest work is particularly outstanding, and she has turned the various parts of the temporary fence into spaces with enticing strange illusions with perspective. The trick drawing type mirror sheet in the first half and the sky which expands forever in the second half change into the design of two red egg-shaped designs which stress depth. It has become a temporary fence that we would like to keep forever. It has created a beautiful cityscape and is deeply impressive.

The Benesse MESSAGEUM Approach was selected for the Gold Award in the Decoration Category, but Shin Matsunaga used beautiful, strong colored stripes on the entrance slope to the exhibit. The harmony of the various colors is brilliant, and the design is vivid, giving courage to the viewer. Through the design, the long slope gains high consistency and expresses the concept of the exhibit of "tying people to people."

In Tosho ARROWS, which won the Gold Award in the Sign Category, Masaaki Hiromura uses a perspective drawing of fine white lines to express the IT transformation of the Tokyo Stock Exchange through the accurate consistency of the design and the smooth flowing movement, making the approach a richly imaginative and symbolic space with great perfection.

The Matsuya Renewal Project by Kenya Hara, which won the Silver Award in the Sign Category, is a temporary fence extending 100 meters along Ginza Street in front of the Matsuya Department Store. A mammoth zipper extends sideways against a white background, and as the renewal reopening nears, the zipper is opened two times, expanding expectations on how Matsuya will be reborn. Although it is simple, this design which effectively utilized the characteristic of the long temporary fence was much talked about.

"The Oak Tree" by Miran Fukuda won the Gold Award in the Experiment Category. It graced her

own exhibit at the Setagaya Art Museum in Tokyo. When you enter the Setagaya Art Museum, the first floor is lined by glass windows so that visitors can enjoy a full view of the park outside. But this time visitors were surprised when they entered the museum because the look had changed completely. White sheets had been pasted on the glass, and decorative, printed frames had been pasted on here and there with the glass showing within the frames, so that the outside scenery could be viewed through these frames. As the visitors moved, the scenery changed. This excellent idea was surprising.

The scope of the works which won CS Design Awards was wide, and it was very interesting that cutting sheet was used in the creation of such art.

Graphic Designer

Materials and Ideas

Shigeo Fukuda

This year's concours is the 12th CS Design Awards, and it is an age in which it is difficult for a single enterprise to carry out a cultural design project supporting such a concours. I would like to express heartfelt gratitude to and respect for the enterprise sponsoring the concours. It goes without saying that this concours has the special condition that cutting sheet, "pasting paint," must be used. I believe this is a condition, interesting point and newness not seen in other design concours. The condition that the works must actually have been designed in the past two years is an important point and significance of this concours.

Masaru Katsumi, who proposed this concours, Yusaku Kamekura, who was a judge from the time the CS Design Awards was established, and Ikko Tanaka have all passed away, so a feeling of loneliness pervaded the judging meeting. But we judges were enraptured in happy excitement by the masterpieces with clear concepts among the submitted works, so the judging meeting became worthwhile.

The flow of lines which run delightfully, the lines pick up speed and form a transparent space, and a wonderful four-dimension interior appears on the two-dimension wall. I was overwhelmed by the development of the sophisticated graphics of the wall works of the Tokyo Stock Exchange and was impressed by the magnificence of the idea.

Lines of five colors run through the white interior space, while leaving behind after-images of lighthearted rhythm. Color floor signs to guide people can be seen in hospitals, but the MESSAGEUM design has been wonderfully perfected with enjoyment with latitude, surpassing function.

In the Tobu Department Store work, the glass surface, which is the contact point with the outside

of the window, and the indoor exhibit space have combined to achieve multiple effects. Also, the humorous combination of the actual goods and the line-drawing vehicle was an outstanding achievement.

Visual tricks can often be seen in overseas cities, but they are still an undeveloped design technique in Japan. Myriad of Dreams WATANABE has enjoyably shown us the effects of visual tricks. The design, which kept the colors to black and gray and which stressed the existence of illustrations, is splendid and sings a fairy tale of illusion.

The temporary fence around a construction site is a public eyesore and a nuisance, but the masterpiece which eradicated the usual temporary fence was the Harajuku Y Building Temporary Fence. The temporary fence is primarily useless and uninteresting. This temporary fence talks to people passing by and at least makes them feel happy. I believe this is the basis of public design. This work has created a three-dimension space with a wonderful design technique. The copy, "FIND SOMETHING SPECIAL HERE AT THE END OF JANUARY 2001," outlines the design concept.

With what new ideas can the cutting sheet be used even more effectively? This year's judging meeting made us feel the even greater significance of this concours.

Graphic Designer

CS Design Awards—Overall Appraisal

Kiyonori Kikutake

The environment revolution by the new cutting sheet and the cityscape which seems to be quietly progressing have changed over to new designs.

Changes have always started from materials. In architecture, the change from classic to modern structures was due to the appearance of artificial materials, and this change occurred after the industrial revolution in 1850. The number of glass structures increased, especially after World War II. Transparent glass was used in large amounts as facing, while the number of semi-transparent glass partitions in rooms has also increased, taking into consideration the light effects in the daytime and at night. In Japan, many open spaces have always existed in homes, and rain doors, lattice doors and shoji screens were developed to control light, creating spaces while carrying out appropriate screening.

But the more open they become, there must be some control method or means. It can be said that the cutting sheet replies to such a demand, permitting free creation of color and forms on glass. The cutting sheet has a very unique expression content appropriate for modern structures.

Since the CS Design Awards were instituted by

Nakagawa Chemical Inc., the awards have already continued for 21 years. The number of solicited works is always large, and this year they totalled 236.

One feature of the cutting sheet that I detected during the judging was its ability to repeat, enlarge, reduce and change letters. Furthermore, the vividness of the colors is outstanding, and with the addition of light and shade, the effects are tremendous.

But what controls the cityscape are generally the many commercial buildings. That the show window displays and designs of restaurants and stores have suddenly become so brilliant is due to the cutting sheet. With the addition of digital prints, there has never been an age in which design can be so easily and freely developed.

As a result, there was the Setagaya Art Museum work, but it was a really beautiful, correct and stylish display, maintaining dignity and giving a favorable impression. Previously Ikko Tanaka's Seibu Art Museum show window design was powerful and gave a strong impression, but I believe that it was because it was designed with full awareness of the characteristic of the cutting sheet. But when the cutting sheet advances into the body design of vehicles, the interesting development unparalleled elsewhere gladdens the eye.

It was learned that fantastic environment productions can be created by using luminous material on floors and combining cutting sheets and illumination. That Nakagawa Chemical developed a measurement of the harmony with the environment and a rich color palette should be highly evaluated as a simulation system constructively contributing to the new environment.

I was even more deeply impressed by the design of the temporary fence, which won the Grand Prix Award. The very cubic and concise sharpness elevated the function of the temporary fence to that of a building in one stroke. I was impressed anew by the splendor of the cutting sheet's delightful sharpness.

I sincerely hope that the Nakagawa Chemical's CS Design Awards will contribute to making Japanese cities enjoyable and beautiful and to elevating culture.

Architect

Development of CS Design Awards

Shigeru Uchida

When I look anew at the entire CS Design Awards, I cannot help but feel that the CS Design Awards have become very prestigious. I am further astonished by the characters of the designers winning the various awards. This probably indicates that the cutting sheet has become an indispensable expression material.

When the matter is viewed from such a standpoint, it seems that the cutting sheet has begun to melt into various spaces. It goes without saying that it is used in graphic expression, and it has begun to show poise in use as decorative material in space. After all, the ability of designers probably discovered the real character of this material.

Amid such a situation, this year's Grand Prix Award was given to Yuki Kikutake's Harajuku Y Building Temporary Fence. For the past several years, she has been producing beautiful landscapes on temporary fences, but this is probably the first time she has won the Grand Prix Award.

When I recall her works for the past several years, each one challenged something new, but this year's work appeared as a beautiful three-dimensional form which could make people imagine an actual building. Generally, temporary fences are mainly decorated by graphic expressions. The meaning of the drawings, the contents and the beauty due to the colors gave a freshness to the urban environment, but this architectural expression probably was the first amid such a situation. I was hit by the urge to retain this temporary fence indefinitely, but the good point of the temporary fence is that it disappears immediately after it fulfills its duty. Since it is a one-time beauty, a courageous experiment remains as a vivid memory.

The Gold Award works in the various categories were all magnificent. Shin Matsunaga's MESSAGEUM, Masaaki Hiromura's Tosho ARROWS and Miran Fukuda's "Oak Tree" were all worthy candidates for the Grand Prix Award. The MESSAGEUM exhibit, the color balance and the course and fluctuations of the pattern wonderfully created a space spectacle. When we look at such a work, we cannot help but feel that the cutting sheet is a material which can fully endure in space. But this is probably due to the ability of the designer.

The line drawings in Tosho ARROWS can be said to have drawn out all the good points of the cutting sheet. Generally speaking, line drawings are difficult as murals, so Tosho ARROWS is truly due to modern technique.

Finally, I was most surprised by the "Oak Tree" work. In this installation which cut out scenery, the cut-out scenery itself changes according to the time, movement and viewing angle, making the cut-out scenery constantly changing paintings. When scenery is cut out in this manner, its detailed character surfaces even more vividly. Furthermore, the passage of time makes the inborn nature hidden in the background come to the surface.

Interior Designer

ACKNOWLEDGEMENT

Yukiya Nakagawa

In connection with the 12th CS Design Awards, I would like to express my heartfelt thanks to the many designers from all over the country who submitted works, to the elite judges and to those concerned of the various organizations which have continued to give unflinching support.

Soon after the development of the cutting sheet, which is generally called a decorative adhesive sheet, the Nakagawa Chemical Inc., which developed the cutting sheet, firmly believed that this material would in the future become a large-sized material comparable to paint. A large-sized material with strong influence is a double-edged sword. Feeling that a guide to how to use this material was necessary in order to properly nurture this material, Nakagawa Chemical established the CS Design Awards, taking into consideration the enlightenment activities for good design and the prevention of color pollution. As expected, this material achieved the hoped-for diffusion and has come to produce many aspects of our life space, such as signs, show windows and vehicles. And now this sheet material has become firmly established throughout the world, but it has shown exceptional diffusion particularly in Japan.

During the 21 years since the start of the CS Design Awards, I feel that familiarity with and sensitivity to the cutting sheet were unconsciously nurtured in Japan through the information that has been repeatedly transmitted.

Also, the printing world has made speedy technical advances in recent years, so it has become possible to print beautiful colors and designs on cutting sheets as well as do printing which can fully withstand long-term use outdoors. As a result outstanding designs have appeared one after the other on construction site temporary fences and on vehicles.

Printing technology which makes possible large-scale expression in a short time has wonderful possibilities, particularly in producing our life space, but at the same time, however, it can be said that it contains the danger of pollution. Yuki Kikutake's excellent temporary fence design, which won the Grand Prix Award, is truly a work which utilized printing technology, and I was impressed anew by the significance of future CS Design Awards and the flow of time.

In closing, I would like to ask designers throughout the nation to actively submit works for the CS Design Awards.

President, Nakagawa Chemical Inc.

Condolences: Ikko Tanaka, who served faithfully as a judge for many years, passed away on January 10, 2002. Together with expressing sincere thanks for his friendship over many years, I would like to pray for the repose of his soul.



作品名／くむらの色 まちの色——農村環境の色彩計画>

編・著／多摩美術大学環境色彩研究会

田口敦子、佐藤 俊、重岡 敏、宮沢 功、山岸政雄、渡部一、
山下 泉、奈良登雄、竹山良三、松澤 稔、小泉雅子、武市道雄、山本博子、眞田みな子
監修／社団法人農村環境整備センター

Title / "Village Color / Town Color——Farming Village Environment Color Plan"

Editor + Writer / Color Environment Study Team, Tama Art University:

Atsuko Taguchi, Masaru Sato, Tetsushi Shigeoka, Isao Miyazawa,
Masao Yamagishi, Kazuji Watanabe, Izumi Yamashita, Iwao Nara,
Ryozo Takeyama, Minoru Matsuzawa, Masako Koizumi,
Michio Takechi, Hiroko Yamamoto, Minako Okada.

Supervision / Advice Center for Rural Environment Support

中川幸也

第12回CSデザイン賞の開催にあたり全国からの多数のご応募と審査員の先生方、また、変らぬご支援を賜っている諸団体関係各位の方々に厚くお礼申し上げます。

一般的に装飾用粘着シートと呼ばれているカッティングシートが開発されて間もない頃、開発者の中川ケミカルでは、この色の素材が将来ペイントに並ぶ大型素材となることを確信しておりました。影響力の大きい大型素材は同列の剣です。適切に育てるためには、使い方の道しるべが必要と感じ、良いデザインへ向けての啓蒙活動と色の公害防止も考え、このCSデザイン賞設立の運びになりました。

果たしてこの材料は、今日、期待通りの普及を見せ、サイン、ショーウィンドウ、車両など、私達の生活空間のあらゆる場面に演出するようになりました。そして今や、シート材料は世界中に定着するようになりましたが、とりわけ日本では別格の普及をしております。例えば、前回のデザイン賞で海外特別賞になったルイ・ヴィトンのあるロサンゼルス的高级店街と、日本で同じレベルと思われる場所の青山、表参道とを比べると、日本では質、量ともに、シートが街の景色に溶け込んでいって良いほどに、色の材料として深く関わっています。これはカッティングシートが日本から普及していったことと、同時にその蔭で、このCSデザイン賞が上手に機能してきたことが考えられます。CSデザイン賞の発足以来21年の間に、繰り返し発信されてきた情報により、日本では知らず知らずの間に、シートに対する親近感、感性が育てられたのだと感じています。

また、従来このCSデザイン賞とは少し離れた存在に見えていた印刷の世界が、ここ数年間に急速な技術の進歩を見せ、シート面に美しい、しかも屋外での長期使用にも十分耐えるような印刷が可能となり、ビルの仮囲いや車両の分野に続々と優れたデザインが登場するようになりました。

短時間で大規模な表現が可能な印刷技術は、特に私達の生活空間を演出する上で素晴らしい可能性を持っていると同時に、公害の危険性をも孕んでいると言えます。今回、見事グランプリに輝いた菊竹雪さんの素晴らしい仮囲いのデザインは、まさしく印刷技術を使った作品であり、改めてこのデザイン賞の持つ役割の再認識と時代の流れとを実感している次第です。

全国の皆様にはますますの意欲的なご応募をお願い申し上げます。

末筆になりましたが、本年1月10日、長い間審査の労をお取り頂いた田中一光先生がご逝去されました。長いお付き合いに感謝申し上げますとともに、心からご冥福をお祈り致します。

(株式会社中川ケミカル代表取締役社長)

第12回CSデザイン賞2002募集要項

「色を通じて社会貢献したい」と願う中川ケミカルが豊かな環境作りを目的にCSデザイン賞を設定し、広く作品を募集します。

募集作品

「貼る塗料」として、一般に市販されているサイン・デザイン・装飾用粘着シート(例(商品名):カッティングシート、タフカル、NOCSS2500など)を使用したもので2000年4月1日より2002年3月31日までにデザイン制作された作品とする。

A:装飾部門/装飾を目的として制作されたもの

建築ファサード・エクステリア・ウィンドディスプレイ・店舗・インテリア・イベントの空間(原則として閉会時に撤去されるもの)など

B:サイン部門/サイン及びサインシステム(CIも含む)の一部として制作されたもの

大型広告塔から店舗小型サイン・交通施設・住環境施設・複合施設のサインシステム

シンボル、モニュメント(記念碑・時計塔など象徴的かつアイデンティティの強いもの)

C:輸送機器部門/車・航空機・船舶などの輸送機器全般の装飾(スポンサー・レジャー施設の乗り物もふくむ)

D:実験部門/平面・立体を問わず独創性のある作品

芸術・工芸作品・実験的なもの・その他(既発表、未発表を問わない)

審査員(順不同、敬称略)

永井一正(審査委員長)

福田繁雄

菊竹清訓

内田 繁

後援団体(順不同)

社団法人 日本グラフィックデザイナー協会

社団法人 日本商環境設計家協会

社団法人 日本サインデザイン協会

社団法人 全日本屋外広告業団体連合会

社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会

社団法人 日本ディスプレイデザイン協会

日本タイポグラフィ協会

協賛 日経デザイン

主催 株式会社中川ケミカル

The 12th CS Design Awards 2002 Solicitation Conditions

The Nakagawa Chemical Inc., which is hoping for a "Better World Through Color," established the CS Design Awards with the aim of creating a rich environment and is soliciting works for these awards.

The works to be submitted must have been designed and produced between April 1, 2000, and March 31, 2002, using any type of self-adhesive film for graphic applications generally sold as "pasting paint," such as Cutting Sheets, Tuffcal, NOCSS2500 and others.

A: Decoration Category/ Those produced for decoration: Building facades, exteriors, window displays, stores, interiors and event spaces (in principle, those that are removed after completion).

B: Sign Category/ Signs and works produced as part of a sign system (including CI): Large advertising towers, small store signs and sign systems of traffic facilities, housing environment facilities and comprehensive facilities. Also symbols and monuments: Works which are symbolic and have strong identities such as monuments and clock towers.

C: Transport Machine Category/ Decoration of transport machines such as vehicles, aircraft and ships. Includes rides at sports and leisure facilities.

D: Experiment Category/ Works with originality regardless of whether they are two- or three-dimensional. Arts, crafts, experimental works and others (can be either published or unpublished, submitted to other competitions or not).

Judges

Kazumasa Nagai (Chief Judge)

Shigeo Fukuda

Kiyonori Kikutake

Shigeru Uchida

Supporters

•Japan Graphic Designers Association

•Japanese Society of Commercial

Space Designers

•Japan Sign Design Association

•Japan Typography Association

•Federation of All Japan Outdoor

Advertising Association

•Nippon Display Federation

•Japan Display Designers Association

Cooperator Nikkei Design

Sponsor Nakagawa Chemical Inc.

カタログ制作/株式会社中川ケミカル 第12回CSデザイン賞 2002年7月

編集/グラフィックデザイン社
表紙デザイン/永井造形研究所
レイアウト/中山ミミ
英訳/藤田シグ

Catalogue Production:
The 12th CS Design Awards Section,
Nakagawa Chemical Inc., July 2002
Edited by Graphic Design Associates
Cover Design: Kazumasa Nagai Design Institute
Layout: Mimi Nakayama
English Translation: Shig Fujita

人間空間に色を添す



本社：〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-1-6 岩田屋ビル4F TEL 03(5835)0341(代)
大阪営業所：TEL 06(6543)2661(代) 札幌営業所：TEL 011(736)4788(代) 福岡営業所：TEL 092(431)3013(代)
NAKAGAWA CHEMICAL INC.
Head Office: Iwataya Bldg., 2-1-6 Higashi-Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0004, Japan, TEL 03(5835)0341
Osaka Office: TEL 06(6543)2661 Sapporo Office: TEL 011(736)4788 Fukuoka Office: TEL 092(431)3013